

泉

若葉学習会専修学校報 No.642
2020 DECEMBER



春からはどんな制服着ているの？
早く教えて未来の自分を

米子校舎 中学3年 井上 結生

君たち
僕たち



境港校舎 中学2年
皆吉 葉月さん

葉月さんの印象を友達に聞くと「癒し系です。」とみんなが答えてくれました。確かに彼女の雰囲気は、まるで彼女の周りだけゆっくりと時が流れているような穏やかな印象があります。趣味を聞くと、「お菓子作り。」と、私が彼女の雰囲気から想像していた通りの答えが返ってきました。しかし、なんと彼女は空手大会で準優勝するほどの黒帯の有段者なのです。私も取材をしていて思わず「えっ？」と声を出してしまいました。こんな癒し系の彼女が道着を着て戦う姿など全く想像できません。やはり人は見た目ではわからないものですね(笑)。

今までお父様の仕事の関係で何度も引越しを経験しているそうですが、友達と離れるのがいつも辛いそうです。でも行く先で友達がすぐできるのも彼女の魅力がそうさせているのでしょう。将来の夢は獣医になること。そのためにも東高を目標にし、学校でもいつも十番以内を維持している有言実行の彼女です。人は動物に癒されるけれど、いつの日か彼女が動物を癒す存在に必ずなるはずですよ。

(担当 角)



米子校舎 中学3年
岡本 七音さん

英検3級に今年1月に合格した岡本さんは、7月にはもう準2級に合格しました。2次の面接試験の練習も、最初こそ緊張しているようでしたが、だんだんと自信を持って応答できるようになり、試験のあとに手応えを尋ねたら、「できました！」との返答でした。1次の筆記試験の補習でもそうでしたが、多少間違えたくらいではへこたれず前に進みます。その強さを持つ生徒が最近は少なくなり、間違えるのを恐れて答えられない生徒に出会うことが増えている記者にとって、岡本さんのその姿勢はとても目立ちます。

その強さの裏に、英検合格への強い気持ちがあるのかと思いついてみると「受けたほうがいいのかな」と思っただけ」というとても軽い動機。東野圭吾、村上春樹の小説を読むことも、ネコやイヌの動画をYoutubeで楽しむことも気の向くまま軽い興味からつまんでみるという感じのようです。

「まだ集中できてない」受験勉強に気が向くのを待つのは怖いので、夜間補習にはこれからも参加してください！

(担当 吉野)

卒業生はいま!



大阪教育大学2年
浦 すみれさん



office&campus

現在、養護教諭を目指し大阪教育大学に通っている浦すみれさん(20歳)。「コロナ禍の中でも定員30名以内なら対面授業を受けることができるそうで、オンラインを併用しつつ充実した日々を過ごしています。来年の三年生の年には教育実習と看護実習があり、それを楽しみにしているそうです。

また彼女は、体育会系のラクロス部に所属しトレーナーとして活躍しています。「関西の一部リーグで初勝利をあげました!」と電話で嬉しそうに語ってくれました。週5回のラクロス部の練習に加え、バイトも2つ掛け持ち(塾とコンビニ)でやっているそうで一日24時間では全然足りないと言っていたのが印象的でした。

すみれさんは、高校1年の時に若葉に通い始め、若葉歴は3年です。私は彼女の授業担当者ではなかったのですが、たまたますれ違った時にリプトンのミルクティーをお互い持っていて、「お揃いですね!」と声をかけてくれたことがきっかけで話すようになりました。若葉の印象を聞くと、「生徒と教員の仲が良く、質問がしやすい環境です。」なのだとか。彼女のコミュニケーション能力の高さがそうさせているのもあるかもしれませんが、教員をしていて良かったと思えるありがたい言葉でした。

「与えられた場所で輝け!」というのが、彼女の座右の銘。環境のせいにはせず、どんな場所や状況でも夢に向かって頑張っていくという意味が込められています。若葉の後輩たちに勇気を与えてくれるメッセージですね。

(担当 古徳)

中学2年生の実力テスト開催! 高校入試を意識して。



(担当 角)



十一月七日、米子・倉吉・境・松江の全校舎で第二回実力テストが実施されました。若葉では毎月の学習の確認テストとして月例テストがありますが、そのテストとは別に、中学2年生では年三回の実力テストがあります。実力テストは、出題範囲も広く、一年後の入試に向けたより実践的なテストです。配点も入試と同じ二百五十点満点で難易度も高く、日頃からの勉強の積み重ねがいかに大切かを実感することでしょう。写真は境港校舎の中学2年生です。

来年は受験生。まだまだ先は長いけれど、いつも自分の目標だけは失わないように一歩ずつ頑張れ、みんなその真剣な目に応えるために先生も頑張るからね。第三回は一月に実施されます。

学園NEWS

境港校舎

職員随想

おじいちゃん猫

池 淵 忠 司



我が家には5匹の猫がいる。子供たちが巣立ってからは、私たち夫婦の大切な話し相手である。いつも猫の出入り口を開けていることもあってか、近所の猫たちが5匹ほどよく食事をしにやってくる。慣れたものでささっと食べて悠然と帰っていく。うちの猫たちも慣れたもので、何も言わず見つけている次第である。うちの猫に「グレ」という名の近所でも有名な猫がいる。実はグレも、もとをたせば前述のようなよき猫であった。うちに来る回数がだんだんと増え、ほぼ毎日のようにやってくる。かわいがっているうちにとうとう住み着いてしまったのである。あとの4匹はちゃんとうちの猫である。猫好きの私たちは、雑誌で見つけた尾道にある「猫の細道」というところに行ってみた。米子から松江自動車道、尾道自動車道を経て約3時間、尾道駅に到着した。自家用車を駐車場に止め、千光寺山ロープウェイで山頂へ。パンフレットに「千光寺山ロープウェイは、千光寺山の山麓と山頂の間を約3分で運行し、車中からは尾道市街地はもろちんのこと、良神社の大楠や天寧寺の三重塔、千光寺、しまなみ海道、また天気の良い日は遠く四国までもの絶景が楽しめます。」とあったが、その通りの絶景が楽しめた。頂上に到着すると、さっそく3匹の猫が我々を出迎えてくれた。観光客に慣れているのか、近づいても逃げもせず、人懐っこく「ニャーニャー」と鳴いてくれた。

また、頂上から、本州と向島に挟まれた「尾道水道」を眺めていると、ずいぶん古い映画なのだが、富田靖子主演の「さびしんぼう」という映画を思い出した。あの映画で見た風景が目の前にあり、ノスタルジックな気持ちになってしまった。山頂からふもとまでの細い路地を降りていく。この路地が「猫の細道」である。パンフレットに「猫の細道は、まるでジブリの世界に迷い込んだような雰囲気。路地のいたる所に、猫にちなんだアート作品がたくさんあり、どこかしも猫だらけ!もちろん本物の猫もいますよ。」とあったが、これまたその通りで、道すがらあちこちに猫がいた。猫と戯れながらふもとまでおりていった。楽しかった尾道を後にして、もう一つどうしても訪れたかった場所「鞆の浦」へと車を走らせた。約1時間ほどで到着。「日本で一番癒される港町といわれる広島県福山市の鞆の浦。鞆の浦の鞆港には江戸時代の遺跡が沢山残っていて、「常夜燈」もそのひとつです。」とあったが、こちらにもいろいろな映画のロケ地になっている。長澤まさみ主演の「潔く柔く」で常夜燈をみてぜひ直接見たいと思った次第である。港の街角を曲がると目の前に常夜燈が現れて、「映画と一緒だ」と感激してしまっただ。あれこれと楽しい思い出とともに家路についた。長女が産産のため、我が家に戻ってきた。長女も猫が好きで、帰ってきたときはいつも猫と遊んでいる。猫もそのことを覚えていてらしく、帰ってくるたびに嬉しそうにまわりついてくる。長男も同じ時期に帰ってきた。しばらくの間、我が家から会社に出勤することにしたらしく、家中が一気に明るくあわただしくなった。つい数年前はこんな風ににぎやかだったのになら思ったりもした。出産が終わって、長女が帰ってきていき、長男も帰っていき、ときがやってくると思うと少し寂しい気がする。あとはまた、5匹の猫とおじいちゃん生活に戻る。あ、おばあちゃんもいた。ま、今はそんな寂しいことは考えず、楽しい日々を過ごそうと思う今日この頃である。